優秀賞

いのちをつなぐアゲハたち

鹿児島県　鹿児島市立春山小学校二年　松元　瑠璃

わたしのいえのにわに、大きなオレンジの木があります。木が大きくなるにつれて、いろいろなしゅるいのアゲハがたまごをうみにやってくるようになりました。木をかんさつしていると、ナガサキアゲハやナミアゲハ、クロアゲハなどがきていました。

アゲハはチョウの中でも大きくて、それぞれきれいなもようをしているのでとてもすきです。そこで、きょ年からオレンジのはによう虫がいたら、じぶんでもおせわしてみたいなと思い、おとうさんたちにおねがいをしていえで一ぴきそだててみることにしました。

つかまえていえのしいくばこに入れた時は、黒くて二センチくらいの鳥のフンのようなよう虫でした。しかし、まい日たくさんのはをたべて、体がどんどん大きくなりました。わたしはまい日きれいなはを中に入れ、フンのそうじをしてかんさつしました。

するとある日、よう虫がエサをたべずにじっとしていたので、しんぱいして見ていると、だんだんだっぴしてみどり色の大きなよう虫になりました。わたしはだっぴするところをはじめて見たので、とてもおどろきました。だっぴした後は、いつものようにはをたべはじめました。五れいよう虫になった後に、じょうぎで長さをはかると七センチくらいあり、ナガサキアゲハだと分かりました。

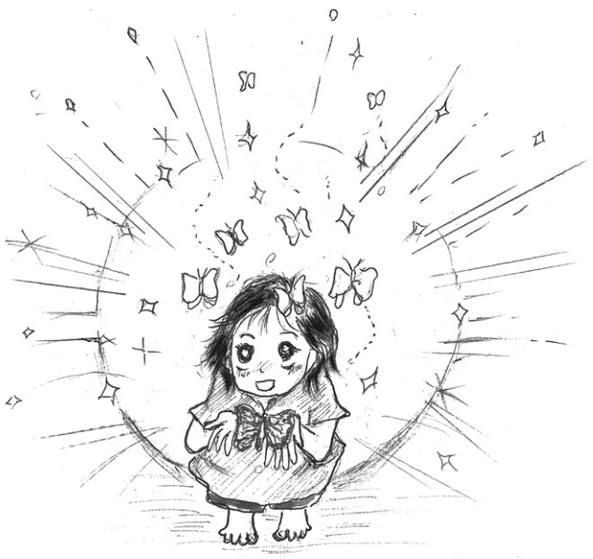
ある日、エサをたべずよう虫がさまよい出したので、しんぱいして見ていました。しばらくすると、木のえだに糸を出し、じぶんの体をこていしてうごかなくなりました。さらにようすを見ていると、だっぴをしてみどり色のさなぎになりました。ずかんでしらべると、羽かまで二しゅう間ほどかかると書いてありました。

いつ羽かするかたのしみで、学校からかえるとまい日かんさつしました。さなぎが日に日にちゃ色にかわっていきました。

ある日学校からかえるとおかあさんが、

「アゲハが羽かしたよ。」

と、教えてくれたのでいそいでわたしのへやに行きました。見ると、チョウがとまり木で羽をかわかしていました。羽がかわいた後、そとに出してあげました。手にチョウをのせた時、羽を広げたすがたはわたしのりょう手より大きくて、とてもびっくりしました。手から羽ばたいてとんで行った時、とても力づよかったです。

後でオスかメスかしらべてみると、メスでした。ぶじにアゲハが羽かしてくれて、ほっとしました。

今年の夏もオレンジの木に、アゲハがきてたまごをうんでいます。おうちで羽かしたアゲハの子どもがきているのかと思うと、とてもうれしくなりました。こうやってアゲハは、まい年いのちをつないでいるのだなあと思いました。来年もあんしんしてかえってきてね。大切に木をまもっているからね。